

南山 宗教文化研究所

Nanzan Institute for Religion & Culture

南山宗教文化研究所 研究所報

第 13 号

2003 年

もくじ

はじめに	ポール・スワンソン	3
第絶対矛盾的宗教		
西田における宗教哲学を読み直す	G. コプフ	4
韓国キリスト教史における「民族」と「宗教」について	金 承哲	15
旧師旧友		31
昨年の行事		36
スタッフの研究業績		41
助成対象になった研究課題一覧		48
<i>Japanese Journal of Religious Studies</i> Vol. 29 (2002) の目次		49
研究スタッフ		51

読みたい項目をクリックしてください

はじめに

ついこの間、『研究所報』の巻頭言を書いたつもりだったのに、早くも一年経ってしまいました。月日が経つのは本当に早いもので、一つ一つの出来事を振り返る暇さえありませんでした。他方で、学問にとって重要なのは「振り返る」という行為であり、今号の『研究所報』も、過去の思想や宗教の歴史的展開を考察するとともに解釈する論文を掲載しています。第一に、現在客員研究所員として研究所に滞在しているゲレオン・コプフ（ルーサー・カレッジ）が「絶対矛盾的宗教　西田における宗教哲学を読み直す」において西田幾多郎の思想を取り上げています。第二に、以前、客員研究所員として研究所に滞在し、現在、金城学院大学で教鞭を執っている金承哲非常勤研究員が「韓国キリスト教史における　民族　と　宗教　について」で韓国宗教史にとって重大なテーマを分析しています。

今年の英語版 *Bulletin* (27号) は日本語版と異なり、前川理子「国内の宗教動向　宗教忌避とナショナル・アイデンティティをめぐる宗教の今日的状況」の英訳、ゲレオン・コプフが西田幾多郎の「場所の論理」について、ジェムズ・ハイジックが「哲学書の翻訳」についての論文を掲載しています。日本語の『所報』と英文の *Bulletin* はいずれも宗文研のホームページ (www.nanzan-u.ac.jp/SHUBUNKEN/) でご覧になれますので、是非ご参照ください。

また、今回、はじめての試みとして南山宗教文化研究所の第一種研究所員がここ数年間に研究代表者として受給した公的な研究費の一覧表を掲げました。本研究所の研究の広がりを実感していただければと思います。その他、第一種研究所員が研究分担者となっているものもいくつかありますが、今回は掲載していません。

それから、研究所のスタッフを最終ページに掲げましたが、以前と比較してその充実に驚かれたことと思います。研究所は新たな展望のもとにさらに研究を充実させていきたいと考えています。

今後も研究所として多くの活動に参加し、多くの方々と触れ合うことができることを切に願っています。

2003年6月1日
所長　ポール・スワンソン

昨年の行事

2002年4月～2003年3月

2003年

- 4月8日 Jean-Pierre Denis (Chef du Service Religion for *La Vie*) が来所し、日本における宗教と考古学について議論。
- 4月15日 James Heisig と Paul Swanson が4月12日になくなった竹内義範の葬儀に参列。
- 4月20日 ルーマニアの研究者と共同でおこなわれるミルチャ・エリアーデについての調査プロジェクトの補助金として、奥山倫明に文部省科学研究費（3年間）が助成されるとの通知が届く。
- 5月15-20日 奥山倫明が *Journal of the American Academy of Religion* の国際化についてのワークショップ出席のためアトランタに出張。
- 5月21-25日 James Heisig が著書 *Filósofos de la nada: Un ensayo sobre la escuela de Kioto* の説明のためバルセロナへ出張。
- 5月26日 奥山倫明が、ジャマイカの Port Antonio で開かれた国際比較文明学会に出
-月5月26 し、“Religious Nationalism in the Modernization Process: State Shinto and Nichirenism in Prewar Japan” というペーパーを発表。
- 6月1日 Victor Hori が著書の完成のため来所。7月いっぱい原稿は完成し、最終校が出版社に送られた。
- 6月7日 第18回研究例会開催。堀雅彦が「『宗教的経験の諸相』の百年-誰がどのように読み、あるいは読まなかったか」というペーパーを発表。11名が出席。
- 6月14日 *Japanese Journal of Religious Studies* (Spring 2002, 29/1-2) が届く。
- 6月20日 2002年度の *Bulletin* 26 が印刷所から届く。
- 6月22日 奥山倫明がフルブライト・アメリカ研究インスティテュート、Religion in the U. S.: Pluralism and Public Presence" プログラムに参加するため、サンタバーバラほか、インディアナポリス、アトランタ、ワシントン D.C. に滞在。
- 6月22日 国際言語文化振興財団から、James Heisig に対し Nicolae Mariş (Rumanian Academy) との共同翻訳プロジェクト（日本哲学文献のルーマニア語への翻訳）について研究助成が与えられる。

- 7月1日 学位論文の調査のため、2ヶ月間滞在の予定で Tullio Lobetti が来所。
- 7月5日 日本宗教学会の理事会に出席するため、Paul Swanson が東京へ出張。
- 7月11-17日 Paul Swanson が Gene Reeves および立正佼成会主催の「法華經と禪学会」（於：東京・長野）にて「止觀と禪 天台智顥の禪觀」という題で発表。
- 7月17日 2001 年の東西宗教交流学会の発表原稿が収録された『東西宗教研究』の創刊号が印刷所から届く。
- 7月22-24日 James Heisig と渡邊学が京都で開かれた第21回の東西宗教交流学会年次大会に出席。
- 8月20日 第11回南山シンポジウムの会議録である『宗教と社会問題の あいだ 力 ルト問題を考える』が出版元である青弓社から届く。
- 9月4-5日 價値観調査に関する講演のため Robert Kisala が宮崎へ出張。
- 9月13-24日 Robert Kisala がタイで開かれた神言会のアジア・太平洋地域の会議に出席。
- 9月14-15日 大正大学で開催された日本宗教学会第 61 回学術大会に出席するため、Paul Swanson、James Heisig、渡邊学、奥山倫明が東京に出張。あわせて *Japanese Journal of Religious Studies* の編集委員会も開かれた。
- 9月29日 Robert Kisala が價値観調査に関する講演のため大阪へ出張。
- 10月7日 世界宗教研究所長でもある卓新平 Zhou Xinping が会長をつとめる中国社会科学院より10名の派遣団が南山大学を訪問。南山宗教文化研究所および人類学研究所にも立ち寄る。
- 10月12日 本研究所第一種研究員がオリエンス研究所で開かれた EGSID の会議に出席するため、東京へ出張。Paul Swanson、渡邊学、奥山倫明は 2005 年開催の国際宗教学宗教史会議19回世界大会実行委員会にも出席した。
- 10月18-19日 Paul Swanson が学習院大学でおこなわれた国際シンポジウム「科学とこころ 科学、価値観、知識の限界」に出席するため東京へ出張。組織委員会のメンバーでもある彼は最後のパネルディスカッションでは議長を務めた。
- 10月23日 奥山倫明がブカレスト大学、ルーマニア・アカデミーからの招待をうけ、ルーマニアを訪問。ミルチャ・エリアーデに関する研究報告を行う。
- 10月30-11月4日 アメリカで開催された Society for the Scientific Study of Religion の年次大会に Robert Kisala が出席。
- 11月7日 ノーベル賞受賞者を囲むフォーラム「21 世紀の創造」(読売新聞社、NHK および南山大学主催) が開催される。「自立した精神とモラリティの再建 人間の尊厳のために」というテーマのもと、ノーベル文学賞受賞者である大江健三郎氏とノーベル経済学賞を受賞したアマーテア・セン氏をスピーカーとして迎えたこのフォーラムでは、渡邊学がコーディネーターを務めた。
- 11月8日 第19回研究例会が開催され、名古屋大学の山口亜紀氏が「近代日本における宗

教学の夜明けと宣教師たち ユニテリアニズムと明治期啓蒙知識人」というペーパーを発表。13名が出席した。

- 11月21-26日 Paul Swanson、James Heisig、渡邊学、奥山倫明、Clark Chilson がカナダのトロントで開かれた American Academy of Religion の年次大会に出席。Clark Chilson が発表、Paul Swanson がパネル “The Contemporary Teachings of Traditional Buddhism” でコメンティターを務めた。
- 12月6日 東北公益文科大学教授の間瀬啓允氏を迎え、「多元主義と日本の宗教学」というテーマで懇話会を開催。21名が参加。
- 12月16-18日 James Heisigが京都大学大学院文学研究科シンポジウム「言葉・翻訳」に出席し、「哲学の翻訳と用語の脱聖化」という発題をおこなう。
- 12月21日-1月6日 Marc Bernabe と Veronica Calafell が来所。
- 12月26-27日 Paul Swanson と渡邊学が京都で開かれた CORMOS の第 49 回年次集会に出席。

2003年

- 1月10日 「宗教研究に対する日本の貢献」を特集する2003年度American Academy of Religionアトランタ大会への日本人研究者の参加を募るため、希望者にむけての第1回ミーティングが研究所で開かれた。8名が出席。
- 1月11日 Paul Swansonと奥山倫明が国際宗教研究所主催のシンポジウム「新しい追悼施設は必要か 若き宗教者の発言」(於:大正大学)に出席。
- 1月16日 Walter Van Herck (Senior Research Fellow, University of Antwerp, Belgium)を迎える、懇話会を開催。“Four Ways of Doing Philosophy of Religion”というテーマのもと18名が出席。
- 1月17日 所員セミナー開催。Clark Chilsonが真宗秘密講について研究報告をおこなった。
- 1月27日 「宗教研究に対する日本の貢献」を特集する 2003 年度 American Academy of Religion アトランタ大会への日本人研究者の参加を募るため、希望者にむけての第 2 回ミーティングが研究所で開かれた。18 名が出席。
- 2月4日 Jay Fordが来所。中世の僧、貞慶について3ヶ月に渡り研究する。
- 2月5日 南山大学執行部から南山宗教文化研究所に委託された文部科学省 21 世紀 COE プログラムへの応募に際し、広く意見を聞くための話し合いの場が設けられた。27名が出席。
- 2月6日 Paul Swansonと渡邊学、南山学長事務室の代表者が大阪に出張。COE の説明会出席のため。
- 2月16-24日 Robert Kisalaが価値観調査について協議するためヨーロッパへ出張。
- 2月18日 Paul Swansonと渡邊学が日本学術振興会主催のシンポジウム「わが国の学術研

究の動向を考えるシンポジウム「人文・社会科学を中心として」に出席、京都に出張。

- 2月19日 『禪林句集』(南山宗教文化叢書第6巻)の初版がUniversity of Hawai'i Pressから届く。
- 2月21日 世田谷区役所が開いたシンポジウム「オウム真理教問題シンポジウム なぜ若者たちはオウムに走ったのか」に渡邊学がパネリストとして参加。
- 2月21-25日 渡邊学が American Academy of Religion 国際委員会出席のためにアトランタに出張。
- 3月2-5日 James Heisig と Robert Kisala がタイの Pattaya で開かれた Inter-Religio 会議に出席。テーマは「今日の東アジアにおける宗教と文化」であった。
- 3月6日 南山大学と南山宗教文化研究所が「宗教・文化・社会的価値の国際比較研究」というテーマで 21世紀 COE プログラムに応募。
- 3月8-9日 Paul Swanson が大正大学での博士論文の口述試問の審査員をつとめるために、また、『宗教研究』の編集会議出席のため東京に出張。
- 3月9日 Paul Swanson、渡邊学、奥山倫明が 2005 年国際宗教学宗教史会議19回世界大会実行委員会の第二回のミーティングに出席。
- 3月17-21日 アジア価値観調査についてのさらなる協議のため、Robert Kisala がフィリピンへ出張。
- 3月27日 山梨有希子が 4 月 1 日から研究員として赴任するために来所。
- 3月13-31日 Paul Swanson がイタリア・ヴェニスの Ca' Foscari 大学大学院での2週間にわたる講義、その他のためヴェニスへ出張。

その他の訪問者

2002年

- 4月15日 John Langan, Professor of Ethics, Georgetown University.
- 5月13日 Rev. Christian Cochini, researcher for the Ricci Institute in Taipei, Taiwan.
- 5月15日 Veronica Calafell, 手塚治『仏陀』、『火の鳥』のスペイン語翻訳者。
- 6月10日 Cindy Bentley, graduate student, McGill University.
- 6月17日 元好朗子、京都ノートルダム女子大学(近東学・アラビア文学)
- 6月24日 Scott Schnell, the University of Iowa.
- 7月24-25日 Ng Yu-kwan, Hong Kong Baptist University.
- 9月19日 長坂格・新潟国際情報大学。
- 9月20日 Esben Andreasen, co-author of Japanese Religions: Past and Present.
- 9月29-30日 Peter Merkx, Stichting Porticus.

10月10日 Barbara Golen, Sophia University.

10月28日 Antony Boussemart, Ecole Francaise d'Extreme-Orient of Paris.

2003年

2月13日 山梨有希子(大正大学) 坂井祐円(大谷大学)

助成対象になった研究課題一覧

ここ数年間に第一種研究所員が
研究代表者となって交付された公の研究費

研究費の名称	期間 (年度)	研究課題等	交付を受けた者 (研究者名又は組織名)	研究経費 (総額,千円)
科学研究費補助金 奨励研究 (A)	1999-2000	一般宗教史をめぐる理論的諸問題の考察	奥山 優明	2,100
伊藤謝恩育英財団 日本研究助成	1999	現代世界における日本の哲学の精神史的意義の解明	ジェームズ・ハイジック	1,200
科学研究費補助金 基盤研究 (B) (2)	2000-2002	日本宗教史に関する基礎的な研究資料の編集刊行による研究の国際化の推進	ポール・スワンソン	7,000
科学研究費補助金 基盤研究 (B) (2)	2001-2003	価値体系の国際比較 (アジア価値観調査)	ロバート・キサラ	15,200
科学研究費補助金 基盤研究 (C) (2)	2002-2004	エリアーデ宗教学の形成前史に関する基礎的研究	奥山 優明	3,700
国際言語文化振興 財団翻訳研究助成	2002	日本思想史基本文献のルーマニア語訳に関する翻訳研究	ジェームズ・ハイジック	500
科学研究費補助金 基盤研究 (B) (2)	2003-2005	宗教学の国際化推進のための研究機関の改革と交流に関する国際比較研究	ポール・スワンソン	14,600